

男女共同参画推進機構シンポジウム

日時：3月9日（月）14：30～16：30

場所：奈良女子大学 G棟 G101室

題目：「女性研究者養成システム改革加速」の本学における取組—総括と課題

講演者：

- ① 山村康子氏（(独) 科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部 プログラム主管）基調講演：「女性研究者支援システム改革プログラムの実績と今後の動向」
- ② 岩井薫氏（女性研究者養成システム改革推進本部長・奈良女子大学理学部長）
講演Ⅰ：「女性研究者養成システム改革加速」採択課題「伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点」の成果と今後の展望
- ③ 春本晃江氏（女性研究者養成システム改革推進副本部長）
講演Ⅱ：「女性研究者養成システム改革加速」の支援を受けて

主催：奈良女子大学男女共同参画推進機構（女性研究者養成システム改革推進本部、男女共同参画推進本部、女性研究者共助支援事業本部、キャリア開発支援本部）

参加者：本学教職員・ポスドク、一般（50名）

[開催主旨]

平成22年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」（平成23年度から同科学技術人材育成補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」）に採択され、実施されてきた本事業（採択課題名『伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点』、採択期間：平成22～26年度）もいよいよ最終年度となりました。

そこで本シンポジウムでは、本事業のプログラム主管 山村康子氏より「女性研究者支援システム改革プログラムの実績と今後の動向」と題した基調講演をして頂くとともに、「女性研究者養成システム改革加速」の本学における取組—総括と課題と題して、本事業の成果と今後の展望、本事業の支援を受けた方々の生の声や本事業の直接的・間接的波及効果等を公開し、本学における男女共同参画推進状況を一緒に考える機会としたいと思います。

シンポジウムは、後藤景子 男女共同参画推進本部長の司会で定刻に始まり、講演に先立って山村康子 科学技術振興機構プログラム主管ならびに沼田勉 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室補佐の紹介があった。続いて今岡学長から挨拶と男女共同参画推進における本学

奈良女子大学男女共同参画推進機構シンポジウム

「女性研究者養成システム改革加速」の本学における取組—総括と課題

平成27年
3月9日(月) 14:30-16:00

会場 奈良女子大学G棟1階G101室

対象 本学教職員、大学院生、学生、男女共同参画推進に関わる他大学の教職員

プログラム

14:30	開会挨拶	学長 今岡春樹氏
14:40	基調講演	「女性研究者支援システム改革プログラムの実績と今後の動向」 山村康子氏 (独) 科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部 プログラム主管
15:20	「女性研究者養成システム改革加速」採択課題	「伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点」の成果と今後の展望 岩井薫氏 女性研究者養成システム改革推進本部長・奈良女子大学理学部長
15:40	「女性研究者養成システム改革加速」の支援を受けて	春本晃江氏 女性研究者養成システム改革推進副本部長
16:00	閉会挨拶	副学長・奈良女子大学男女共同参画推進機構長 井上啓子氏

奈良女子大学
〒840-0192 奈良県奈良市大和町1-1
Tel: 0742-20-3208 FAX: 0742-20-3234
Email: kaikaku@mu.nara-wu.ac.jp

託送申込先
女性研究者共助支援事業本部
Tel/Fax: 0742-20-3344
Email: shien@cc.nara-wu.ac.jp
申し込み期間: 2月23日(月) 16:00

主催: 奈良女子大学男女共同参画推進機構(女性研究者養成システム改革推進本部、男女共同参画推進本部、女性研究者共助支援事業本部、キャリア開発支援本部)

の状況について簡単な説明がなされた。

〔基調講演〕「女性研究者支援システム改革プログラムの実績と今後の動向」

山村プログラム主管は、研究者に占める女性割合の推移や各国の比較データ等を示された上で、我が国における女性研究者が少ない現状と共にその理由や分野等を示され、科学技術基本計画において女性研究者活躍促進の方策が取られていることを紹介された。



女性科学技術人材育成、特に、理工農学系の女性研究者の比率を上昇させるため各種女性研究者支援・養成事業が施策され、特に「女性研究者養成システム改革加速事業」採択事業においては、女性研究者の比率を上昇させるためのさまざまな制度やシステムが開発されており、有効に機能している具体的な例が示された。最後に平成 27 年度の公募事業についての紹介があった。

〔講演Ⅰ〕「女性研究者養成システム改革加速」採択課題「伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点」の成果と今後の展望

岩井薫 女性研究者養成システム改革推進本部長は、本学の男女共同参画推進活動の流れと現在の組織 男女共同参画推進機構について簡単に紹介したのち、本事業の目的と達成目標、理工系女性研究者の採用計画と実績データを示し、理学系・工学系・理工農系・機関全体の女性教員比率が達成目標を上回って上昇していることを報告された。続いて、どのようにして目標を達成したかを、本事業で実施した 3 つのシステム〔①若手女性研究者養成システム、②若手研究者サポートシステム、③研究スキルアップシステム〕について紹介するとともに、本事業の成果やその波及効果として、女性教員採用比率、女性研究者の上位職階への登用、機関全体での女性教員比率などのデータを示しながら説明し、最後に今後の展望を述べられた。

〔講演Ⅱ〕「女性研究者養成システム改革加速」の支援を受けて

春本晃江 女性研究者養成システム改革推進副本部長は、本事業で支援を受けた女性研究者の立場から、本事業の成果について具体例をあげて説明された。続いて、上記の 3 つのシステムが有効に働いていることについて、外部資金の獲得状況、研究成果の学会発表や学術論文数、アンケート結果などのデータをあげて、本事業による女性研究者支援の有効性と重要性を熱く語られた。

時間が押していたこともあり、短い質疑応答の後、沼田 人材政策推進室補佐よりご挨拶頂き、続いて井上 男女共同参画推進機構長の閉会の挨拶でシンポジウムを終了した。